

香芝市議会報告

～ vol.3 ～

野口まさふみ

発行日：2025.1月発行

発行者：香芝市議会議員 野口まさふみ



野口まさふみ プロフィール 1968年7月生まれ(56才) 昨年5月初当選

■大阪府立生野高等学校 卒業
■国立金沢大学工学部 卒業
■中央大学法学部 在学中
■商社勤務を経て個人会社を設立

■元国会議員秘書
■現在、会社役員、塾講師、香芝在住30年
■商社勤務時にシンガポール駐在経験あり
■家族は両親と妻、子ども3人はようやく独り立ち



12月市議会 一般質問

香芝市は、高齢になっても住みやすい？ ずっと健康に住もうための取り組みを議論！

《そもそも高齢化に対する国の考えは??》

- 💡 人生100年時代！
- 💡 日本は諸外国に比べて、会社や職場が主な居場所という特徴がある。退職・リタイア後、社会とのつながりや日々の運動習慣・周囲とのコミュニケーション量が一気に減少する傾向がある。

課題

リタイア後の主な居場所が自宅だけ！

➡『孤独』防止！自治体の取り組みとして居場所づくりを重視！

《香芝市の現状は??》

- 💡 令和4年実施の調査において、週1回程度外出する or ほとんど外出しない人の割合は高齢者全体の2割超（多い）。
- 💡 「通いの場」創設の一環として「いきいき百歳体操」の普及と、高齢者のグループ活動の支援を平成30年から実施。参加者は増加中ではあるものの、人づきあいが苦手という意見も多い！

野口まさふみの視点

- ①香芝市の傾向として高齢化率は全国水準より低位
ピークも全国に比べ、遅く来る見込み
- ②高齢者のみの世帯数が増加傾向
- ③グループ活動に苦手意識を持たれる方と諸活動に参加している方の差は、今後どんどん広がる

市での取り組みが一方的・硬直的になってしまうと問題。他者とのコミュニケーションに苦手意識を持つ方々への理解や、多種多様な取り組みの研究・模索が必須。専門的知見も必要不可欠であり、積極的・横断的な取り組みにしなければならない。

すでに取り組んでいることなく、ほとんど外出しない人の減少に着眼点を。



皆さん、今の香芝は市内どこに住んでも住みやすさは同じでしょうか。

閑屋穴虫地区では今も、買い物が不便という声、市内各所へのアクセスが不便という声を聞きます。市内の他の地域に比べて高齢化率がやや高めというのもその理由かもしれません。

今回の議会質問にあたり改めて考えたのが、「介護予防」という視点。

一口に「介護予防」と言っても必要な施策は多岐に亘ります。

まず、身体的安全面として自宅内での転倒防止対策や個々人の筋力低下防止。加えて誤嚥（ごえん）防止などの医療的アプローチも必要です。

他にも心の健康面として注目度が上がっているのが、うつ症状対策としての孤独防止。

他にも「介護予防」には多くのアプローチが必要とされていますが、香芝ではご高齢の独り住まいや高齢夫婦だけの世帯が徐々に増加しており、自助努力での介護予防には限界があります。

高齢になってからの外出のしやすさや周囲からの気づきの有無がどれだけ大事か。もしそれらに地域差がある場合は、市の課題として取り組まなければなりません。

同じ観点から注視したいのが「認知症に優しい街」の研究。

例えば、山梨県の人口1,000人超、栃木県の人口24,000人超の2つの町。

どちらも香芝市より人口規模は小さく、役所職員数も保健師数も香芝より少ない地域ですが、認知症に優しい街として研究対象となり、共通点が見えてきました。

それは、

- ①町長のリーダーシップ
- ②住民へのビジョンの共有
- ③まちづくりのための庁内連携体制
- ④行政と住民の顔の見える関係

の4点。

まず首長の強い意志表示で街の空気をつくり、役所内、役所と住民の間、両方において情報共有、距離感を近く。

要は、誰もが年老いていくという自然の流れに『対抗』ではなく『連携』。

行政から空気・スタイル・体制をつかって日々動かしていく、一生暮らしやすい街づくりの肝は多額の予算ではなさそうです。

諸活動のご報告①

道路の陥没と電柱（根元）のひび割れ補修

↑ 近隣の方からの情報提供

市と情報共有がスムーズにできたことできれいに補修されました。

電柱の経年劣化は電力の安全・安定供給を脅かすものですが、保全人員不足も昨今の課題。

今後も情報をいただければと思います。



諸活動のご報告②

ペット同伴の避難訓練に参加。

事前のシミュレーション大事!!

